

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
専門学校 トヨタ東京自動車大学校		1976/6/1	松浪 良樹		〒193-0944 東京都八王子市館町2193番地 (電話) 042-663-3211		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人 トヨタ東京整備学園		1988/10/20	前川 眞基		〒193-0944 東京都八王子市館町2193番地 (電話) 042-663-3211		
目的	サービススタッフとして、環境対応車等の「未来」を見据えた次世代のサービスに対応できる、幅広い知識や技能、教養を身に付けるなど実践的かつ専門的な職業教育を行うことを目的とする。						
分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士	
工業	工業専門課程		スマートモビリティ科		平成28年文部科学省告示第18号		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2100	720	200	1180	0	0
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		61人		5人	5人	10人	
学期制度	■1学期:4月1日～7月31日 ■2学期:8月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各科目について試験を実施 合格点は60点以上		
長期休み	■夏季:7月21日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月7日 ■春季:3月25日～4月5日			卒業・進級条件	授業科目は全科目を必修とし、欠席、遅刻、早退した場合は、原則当該時間数の補講を実施。 全ての試験に合格し、必要な課程を修了した者を進級認定。		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 担任、課長による面談。 保護者と連絡を密に取り連携。			課外活動	■課外活動の種類 地域の清掃活動への参加 クラスごとに地域清掃の実施 めじろ台まつり神輿担ぎ モータースポーツイベントへの積極参加 ■サークル活動: 有		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 トヨタ販売店各社 ダイハツ販売店各社 デンソーセールス 等 ■就職率 ^{※1} : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 100 % ■その他 (平成27年度卒業者に関する平成28年5月1日時点の情報)			主な資格・検定等	・第2種電気工事士 ・ジョブパス2級 ・学士		
中途退学の現状	■中途退学者 3名 ■中退率 6.9 % 平成28年4月1日時点において、在学者43名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者40名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 ・経済的に続かなくなったため 2件 ・精神的に辛くなった 2件 ・両親の離婚 1件 以上(重複あり) ■中退防止のための取組 担任による面談や家庭への連絡による連携。入学後早期にコミュニケーション向上プログラムの実施。校内に相談室の設置。 教員の心理学研修による学生対応力の向上。中退防止・早期退職防止に対応する授業の実施。						
ホームページ	http://www.toyota-jaec.ac.jp						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

環境対応車等、次世代自動車の最新の動向をしっかりと見据え、職業に必要となる最新の知識・技術をカリキュラムに反映するため、企業・業界団体等と連携し、教育課程編成を行い実践的かつ専門的な職業教育を実施する。また、卒業生の就職先企業への訪問を実施すると共に就職先企業へアンケートを実施し、職場からの意見等を教育課程への反映させるための検討を教育課程編成委員会で行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成に関することは、委員会を設置し、委員会の議事に従い必要に応じて校長に具申または報告し、校長はこれらを尊重した上で判断し、学校運営に展開するものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
水野 晴彦	トヨタ自動車株式会社	H29.4.1～H30.3.31(1年)	③
有山 仁	東京トヨタ自動車株式会社	H29.4.1～H30.3.31(1年)	③
安藤 満	トヨタ東京カローラ株式会社	H29.4.1～H30.3.31(1年)	③
橋本 工	トヨタ西東京カローラ株式会社	H29.4.1～H30.3.31(1年)	③
在田 泰彦	トヨタ東京販売ホールディングス株式会社	H29.4.1～H30.3.31(1年)	③
金子 俊明	一般社団法人 東京都自動車整備振興会	H29.4.1～H30.3.31(1年)	①
松浪 良樹	専門学校 トヨタ東京自動車大学校	H29.4.1～H30.3.31(1年)	
河本 博司	専門学校 トヨタ東京自動車大学校	H29.4.1～H30.3.31(1年)	
若林 良弘	専門学校 トヨタ東京自動車大学校	H29.4.1～H30.3.31(1年)	
太田 靖也	専門学校 トヨタ東京自動車大学校	H29.4.1～H30.3.31(1年)	
末次 真一郎	専門学校 トヨタ東京自動車大学校	H29.4.1～H30.3.31(1年)	
戸賀沢 愛彦	専門学校 トヨタ東京自動車大学校	H29.4.1～H30.3.31(1年)	
森 修一	専門学校 トヨタ東京自動車大学校	H29.4.1～H30.3.31(1年)	
望月 邦和	専門学校 トヨタ東京自動車大学校	H29.4.1～H30.3.31(1年)	
藤川 龍彦	専門学校 トヨタ東京自動車大学校	H29.4.1～H30.3.31(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回開催、9月、3月に計画

(開催日時)

第1回 平成27年9月18日 13:30～16:15

第2回 平成28年3月24日 10:30～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

企業委員より、カーナビやITS、自動ブレーキ、燃料電池車などの新機構の知識、技術を学んで欲しい。また、上級課程の学生は、空気充填士の資格を取ってきてほしいとの意見より、2年1学期のスマート工学 I に於いてカーナビ、ITS等の新技術の知識、技術を修得する授業を行った。(H28.6/9,10,22,23実施)、また、車両整備 I に於いて、空気充填士資格取得授業を実施し、全員資格を取得した。(H28.5.20実施)

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

自動車技術の進歩は目覚しく、それに対応すべく企業と密接な連携を取り、実践の場で必要な知識、技術を習得できる教育編成を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

科目:スマート工学に於いて、カーナビ、ITS、HEMS、スマートコミュニティについて連携する企業より、講師を派遣して頂き、授業を行った。評価については、各項目に於いて、60%以上の理解がある事を、企業との打ち合わせ時にいき、その評価は企業の方に頂き、学校側が最終的な評価を行った。

科目:車両整備Ⅰに於いて、自動車用タイヤに空気を充填する作業は、高圧の空気を取り扱うことから、危険が伴い、死亡事故が発生する事から、H2.10.1から「特別教育を必要とする業務」に義務付けられている。そこで、企業と連携し、この特別教育を実施して頂き、修了試験の結果から企業の方に評価をして頂き、学校側が最終的な評価を行った。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
スマート工学Ⅰ (2年1学期)	カーナビ、ITS、HEMSと スマートコミュニティについて学ぶ	株式会社デンソーセールス
車両整備Ⅰ (1年1学期)	空気充填士資格取得講習	日本グッドイヤー株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

推薦学科の専任教員は、4人であるが、当校は自動車に関する学科のみであるので、教員に対する研修等に関しては、教育部全体のバランスを考慮して計画・実施している。

教職員人材育成プログラムに基づいた教育・研修の中で次のような部分で企業との連携を行う。

技術の進歩に対応する教育を行うため、企業と連携し新機構等の研修の参加。また、関係団体の主催する、指導力向上の研修に資格制度と連携し参加することにより、教員の更なる資質の向上を図る。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

自動車販売店での整備作業の実務研修は、実務経験のない新任教員に実施し、2015年度は1名(9/2～11/30)。また、入校後5～10年程度経過した教員に対しては、2015年度4名(7/20～26)(内1名は推薦学科教員)。

トヨタ自動車(株)が主催する、新機構等の研修に、2014年度6名(7/28～30)。2015年度6名(5/30～6/1)参加(内2名は推薦学科教員)。

新機構等の研修参加教員が、定期的に校内にて展開し、常に新しい知識、技術の修得に努めている。

②指導力の修得・向上のための研修等

全国自動車大学校・整備専門学校協会が主催する、指導力の修得・向上のための研修を実施、2014年度3名(7/28～8/1)、2015年度4名(7/27～30)。

その他、東京都私学財団、公益社団法人東京都専修学校各種学校協会、他の主催する各種研修に、資格に応じて参加。2014年度18名、2015年度16名(研修等の実績参照)

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

自動車販売店での実務経験のない新任教員に対して、入校1年以内に2ヶ月間の販売店研修を実施し、実践的な技術と知識を身につける。毎年9～10月に実施。

トヨタ自動車(株)が主催する新機構等の研修については、事前に研修内容の打ち合わせを行い、合わせて該当科目担当者に実施する。毎年8月頃に実施。

②指導力の修得・向上のための研修等

全国自動車大学校・整備専門学校協会が主催する、指導力の修得・向上のための研修を入社後3年以内に7月に全員に実施。

その他、東京都私学財団、公益社団法人東京都専修学校各種学校協会、他の主催する各種研修に、入校年数、資格に応じて実施する。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者として、自動車業界関係者、地域住民、卒業生を含めた学校関係者評価委員会を組織して、それぞれの立場から教育活動、学校運営の状況について評価を行い、意見を交わし、その結果を教職員会で検討を行い、次年度以降の改善・改革活動につなげる。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	基準1 教育理念・目的・育成人材像 理念を基に人材育成像を定めている。必要なカリキュラムを定め教育を実施している。
(2)学校運営	基準2 学校運営 トヨタ自動車(株)と調整を取りつつ、理事会により承認を得ている。
(3)教育活動	基準3 教育活動 各科卒業時の目標となる人物像を当校の教育方針に基づいて定め、教室等に掲示している。
(4)学修成果	基準4 学修成果 就職希望者全員が就職し、整備士資格を卒業生全員が取得した。
(5)学生支援	基準5 学生支援 就職支援体制は整備され、有効に機能。担任教員と連携した個別徹底指導を実施
(6)教育環境	基準6 教育環境 就職先企業と連携して、適切な実施要領・習得目標・評価基準を定め実施している。
(7)学生の受入れ募集	基準7 学生の募集と受入れ 進学説明会への参加以外にも個別での高校訪問を実施し、積極的に最新の情報を提供している。
(8)財務	基準8 財務 応募者・入学者、充足率等の推移は把握している。
(9)法令等の遵守	基準9 法令等の遵守 関係法令及び設置基準は遵守され、適正な運営がなされている。
(10)社会貢献・地域貢献	基準10 社会貢献・地域貢献 高等学校のキャリア教育に教員を派遣して授業を実施している。
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

企業委員より、次世代自動車や新機構等(カーナビ、ITS等)の知識や技術を身につけておいて欲しいとの意見があった。これらに対して、企業と連携し授業を行った。(授業科目:スマート工学 2年1学期)
また、基礎能力もしっかり身につけて欲しいとの意見もあり、授業レポートは、毎日提出させ添削している。
社会責任上、法令遵守は重要であるので、学校としても引き続き指導していく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
村上 尚史	トヨタ自動車株式会社	H29.4.1~H30.3.31(1年)	企業
菅野 剛	東京トヨタ自動車株式会社	H29.4.1~H30.3.31(1年)	企業
中島 慶太郎	東京トヨペット株式会社	H29.4.1~H30.3.31(1年)	企業
篠原 智治	ウエイズ・ビジネスサービス株式会社	H29.4.1~H30.3.31(1年)	企業
森村 徹	ネットトヨタ多摩株式会社	H29.4.1~H30.3.31(1年)	企業
愛甲 彰人	館町	H29.4.1~H30.3.31(1年)	地域
安藤 俊明	トヨタ西東京カローラ株式会社	H29.4.1~H30.3.31(1年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

〈ホームページ〉・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL: <http://www.toyota-jaec.ac.jp> H27. 10. 1公開

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

自動車の技術進歩は目覚しくそれに対応するべく最新の技術、情報等の意見を収集するためには、就職先企業との連携は必要不可欠ものであり、情報提供をすることにより、当校の学校運営、教育への取り組み等を理解してもらうことにより、意見を頂き改善を行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育基本理念、スローガン、校長名、所在地
(2)各学科等の教育	各学科の目標、取得可能科目、定員、カリキュラム
(3)教職員	職員組織、全職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育として研修旅行・モータースポーツイベント参加
(5)様々な教育活動・教育環境	学生支援
(6)学生の生活支援	学生支援
(7)学生納付金・修学支援	学生の募集と受入れ
(8)学校の財務	財務、閲覧用財務書類等
(9)学校評価	自己点検評価報告書、学校関係者評価報告書
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<http://www.toyota-jaec.ac.jp>

授業科目等の概要

(工業専門課程スマートモビリティ科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			電気工学	自動車で一般に使われる直流だけでなく電磁気や交流理論などについて、講義だけでなく実際の測定や実験によって理解を深める	1 ①	75.6		○		△	○		○	○	
○			基礎工学	高校の物理・化学の復習から、工学的な考え方を身につけるために機械工学の基礎を学ぶ	1 ①	75.6		○			○		○		
○			HVシステム概論	ハイブリッド車の構造や作動について、講義だけでなく実車を使って体験し理解を深める	1 ①	68.4		○		△	○		○		
○			車両整備Ⅰ	定期点検の復習・空気充填士資格取得	1 ①	57.6				△	○	○	○		○
○			自動車産業研究Ⅰ	自動車産業の歴史と現状	1 ①	27		○			○		○	○	
○			営業工場管理Ⅰ	ディーラー業務とビジネス検定2級	1 ①	75.6		○	△		○			○	
○			電動システム	モーター、バッテリー、インバータなど、電動車両の基本要素の構造作動を学ぶ	1 ②	64.8		○		△	○		○	○	
○			機械要素	ベアリング、ねじ、歯車など機械を構成する基本要素について学習する	1 ②	34		○			○		○		
○			基礎製図	製図とは何か、線の意味や役割、立体を平面に表したり平面図を立体として認識するための基本的な考え方を学び、実際に簡単な図面を描けるように練習する	1 ②	34.2			△		○	○		○	
○			HVシステム演習Ⅰ	ハイブリッド車のトラブルシュートの方法と、実践	1 ②	108			△		○	○		○	
○			電気工事士演習	第2種電気工事士試験取得のための演習	1 ②	84.6		○		△	○		○	○	

○		自動車新機構 I	カーナビの取付作業と、CAN通信の基礎	1 ②	37.8		△		○	○		○		
○		問題解決手法 I	トヨタの問題解決手法の基礎と、身近な問題解決	1 ②	14.4		○	△		○		○		
○		営業工場管理 II	工場経営の基礎	1 ②	45		○			○		○	○	
○		エネルギー工学	国内外のエネルギー情勢と、解決のための対策の考え方や取組の現状について	1 ③	28.8		○			○		○		
○		電動車両研究 I	電気自動車の構造や使い方、製作に当たっての基礎的な方法や法令について	1 ③	21.6		○			○		○		
○		材料工学 I	機械材料の基礎と、材料力学の考え方について学ぶ	1 ③	55.8		○			○		○		
○		機械設計 I	基礎製図の知識を生かして、車両設計の基礎をと、CADの基本操作を学ぶ	1 ③	57.6		△			○	○		○	○
○		車両整備 II	24か月点検作業と、車検整備	1 ③	64.8		△			○	○		○	
○		HVシステム演習 II	ハイブリッド車の高度な故障探求	2 ①	77.4		△			○	○		○	
○		機械設計 II	3D CADを使って車両の設計と製作を行う	2 ①	140		△	△		○	○		○	○
○		スマート工学 I	環境マネジメントシステム(EA21)とITSやHEMSなどのスマート社会の構成要素の基礎を学ぶ	2 ①	25.2		○	△	△	○			○	○
○		車両整備 III	振動、騒音の発生原因の探求とその対策について学ぶ	2 ①	46.8		△			○	○		○	
○		材料工学 II	自動車の板金塗装に関わる基礎知識と、見積もりについて学ぶ	2 ①	43.2		○	△		○			○	
○		問題解決手法 II	身の回りの問題を見つけて手法に則って解決し、その過程を発表する	2 ①	18		△			○	○		○	
○		スマート工学 II	エネルギー工学やスマート工学 I の知識を用いて、今後の「スマート社会について」検討する	2 ②	43.2		△	○		○			○	

○		自動車新機構Ⅱ	PHVやFCV、自動ブレーキなどの自動車の最新の機構について学ぶ	2 ②	52.2		○	△	○	○				
○		トレーナ実習	1年生の「実習授業」を計画して実施し、お互いに評価を行う	2 ②	103		△	△	○	○			○	
○		インターンシップ	内定企業等で実務実習を行う	2 ②	144		△		○		○			
○		自動車産業研究Ⅱ	現在の自動車産業の実態と、これからの自動車業界について学ぶ	2 ②	27		○			○			○	○
○		卒業研究	グループ（2～4名）に分かれて、研究テーマについて研究を行う	2 ② ③	324					○	○		○	
○		卒業研究発表	卒業研究についての発表会を企画、準備して「卒業研究発表会」行う	2 ③	36				○		○		○	
○		一般教養	各種展示会等を見学することにより、新技術の収集 自動車関連イベントを企画、運営を行う	1 2 通年	245		△		○		○		○	
合計				33	科目	2356時間(単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
・全ての科目の定期試験において6割以上を取り、欠席遅刻に関しては補講を行う。	1	学年の学期区分	3期
	1	学期の授業期間	14週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。